

「使用上の注意」改訂のお知らせ

2025年6・7月

販売元
日本ケミファ株式会社
東京都千代田区岩本町2丁目2-3
製造販売元
SHIONO シオノケミカル株式会社
東京都中央区八重洲2丁目10番10号

プロトンポンプ・インヒビター
処方箋医薬品

日本薬局方 オメプラゾール腸溶錠

オメプラゾール錠10mg「ケミファ」

オメプラゾール錠20mg「ケミファ」

このたび、標記製品の「使用上の注意」の項を改訂いたしましたので、ご案内申し上げます。
今後のご使用に際しましては、下記の内容をご参照くださいますようお願い申し上げます。

記

<改訂内容（2025年6月改訂）>（該当部分のみ抜粋）

1. 「禁忌」の項の記載を一部改訂し、以下のように改めました。

.....部：削除箇所

改訂後	改訂前
2. 禁忌（次の患者には投与しないこと） 2.1 省略（現行通り） 2.2 リルピピリン塩酸塩を投与中の患者[10.1 参照]	2. 禁忌（次の患者には投与しないこと） 2.1 省略 2.2 アタザナビル硫酸塩、リルピピリン塩酸塩を投与中の患者[10.1 参照]

2. 「相互作用」の「併用禁忌」、「併用注意」の項の記載を一部改訂し、以下のように改めました。

.....部：削除箇所

改訂後	改訂前															
10. 相互作用 省略（現行通り） 10.1 併用禁忌（併用しないこと） <table border="1"><thead><tr><th>薬剤名等</th><th>臨床症状・措置方法</th><th>機序・危険因子</th></tr></thead><tbody><tr><td>リルピピリン塩酸塩 (エジュラント) [2.2 参照]</td><td>省略（現行通り）</td><td>省略（現行通り）</td></tr></tbody></table>	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	リルピピリン塩酸塩 (エジュラント) [2.2 参照]	省略（現行通り）	省略（現行通り）	10. 相互作用 省略 10.1 併用禁忌（併用しないこと） <table border="1"><thead><tr><th>薬剤名等</th><th>臨床症状・措置方法</th><th>機序・危険因子</th></tr></thead><tbody><tr><td>アタザナビル硫酸塩 (レイアタツ) [2.2 参照]</td><td>アタザナビル硫酸塩の作用を減弱するおそれがある。</td><td>本剤の胃酸分泌抑制作用によりアタザナビル硫酸塩の溶解性が低下し、アタザナビルの血中濃度が低下することがある。</td></tr><tr><td>リルピピリン塩酸塩 (エジュラント) [2.2 参照]</td><td>省略</td><td>省略</td></tr></tbody></table>	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	アタザナビル硫酸塩 (レイアタツ) [2.2 参照]	アタザナビル硫酸塩の作用を減弱するおそれがある。	本剤の胃酸分泌抑制作用によりアタザナビル硫酸塩の溶解性が低下し、アタザナビルの血中濃度が低下することがある。	リルピピリン塩酸塩 (エジュラント) [2.2 参照]	省略	省略
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子														
リルピピリン塩酸塩 (エジュラント) [2.2 参照]	省略（現行通り）	省略（現行通り）														
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子														
アタザナビル硫酸塩 (レイアタツ) [2.2 参照]	アタザナビル硫酸塩の作用を減弱するおそれがある。	本剤の胃酸分泌抑制作用によりアタザナビル硫酸塩の溶解性が低下し、アタザナビルの血中濃度が低下することがある。														
リルピピリン塩酸塩 (エジュラント) [2.2 参照]	省略	省略														

改訂後			改訂前		
10.2 併用注意（併用に注意すること）			10.2 併用注意（併用に注意すること）		
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
省略（現行通り）			省略		
ポリコナゾール	省略（現行通り）	省略（現行通り）	ポリコナゾール	省略	省略
クロピドグレル硫酸塩	省略（現行通り）	省略（現行通り）	ネルフィナビルメシル酸塩	ネルフィナビルの作用を減弱することがある。	相互作用の機序は不明である。 ネルフィナビルの血中濃度が低下することがある。
省略（現行通り）			クロピドグレル硫酸塩	省略	省略
			省略		

<改訂理由>

自主改訂による改訂

相互作用相手薬の製造販売中止（経過措置期間満了）に伴い、「禁忌」、「相互作用」の「併用禁忌」、「併用注意」の項を改訂しました。

以上

- 今回の改訂内容につきましては、医薬品安全対策情報（DSU）No. 337（2025年7月）に掲載される予定です。
- 最新の電子化された添付文書は弊社ホームページ「医療関係者向けサイト」（<https://www.nc-medical.com/>）及びPMDAホームページ「医薬品に関する情報」（<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html>）に掲載いたします。また、添付文書閲覧アプリ「添文ナビ」で下記 GS1 コードを読み取ることでご覧いただくこともできます。

